

NISSIN REPORT

2011.4.1-2012.3.31



戦略

トップインタビュー

「さらなる成長に向け、
アジアの現地化戦略を徹底!!」

安藤宏基

代表取締役社長・CEO



さらなる成長に向け、アジアの現地化戦略を徹底!!

安藤CEOが語る日清食品グループの現在と未来



安藤宏基 Koki Ando 代表取締役社長・CEO

1972年米国日清入社、翌年日清食品入社。76年「日清焼そばU.F.O.」「日清のどん兵衛きつね」を開発。85年代表取締役社長。2007年安藤スポーツ・食文化振興財団理事長。世界ラーメン協会(WINA)会長。08年より現職。現在、日本食品・バイオ知的財産権センター会長、日本経済団体連合会常任理事、国際連合世界食糧計画WFP協会会長など。

めざましい経済発展を背景に、成長を続けるアジアのインスタントラーメン市場。グローバル企業への飛躍をめざす日清食品グループは、アジアでのビジネス拡大をスプリングボードに世界展開の本格化を図っています。今回は、持続的成長へ向けたグループの取り組みと、その中核をなすグローバル戦略について安藤CEOにインタビューしました。

グローバルな事業基盤の整備に注力

最初に第64期の経営環境と連結業績を総括してください。

第64期は変化の激しい環境での経営となりました。2011年4月から6月までの3か月間は、被災地の復興を支援するため東北3県に対する非常時の製品供給に集中し、新製品の市場投入を見送りました。第2四半期以降は平常に戻りましたが、小麦をはじめとする資材価格の高騰やデフレの進行による価格競争など、収益を圧迫する事象が相次いで生じています。

こうした中、当社グループは即席めん事業では、「カップヌードル」や「どん兵衛」など、主力製品の販売に注力したほか、低温事業、菓子、飲料など、国内事業の深耕に努めました。また、将来の成長を見据えた技術開発投資を継続するとともに、新興国を中心としたグローバルな事業基盤の構築に経営資源を投下しました。

この結果、第64期の業績は売上高は前期比1.5%増の3,806億74百万円、営業利益は前期比24.1%減の262億11百万円、経常利益は前期比22.8%減の280億99百万円、当期純利益は前期比10.7%減の185億38百万円と、増収減益になりましたが、当期は次期につながる「仕込み」が十分にできた年であり、グローバル企業として飛躍するための基礎を固めた年であると捉えています。

この1年、日清食品グループは海外事業を一段と拡大されました。グローバル展開の基本方針を改めてご説明ください。

インスタントラーメンの総需要は全世界で982億食とされています。あと1年か2年で1,000億食に達することは間違いのないでしょう。それに対して日本の総需要は55億食にすぎません。産業構造的に加工食品はグローバル化が最も遅れている業界のひとつですが、国内需要だけを見てマネジメントする時代はすでに終わり、海外展開を進めなければ成長が望めない時代になっています。「グローバル元年」という表現を聞くこともありますが、もはや元年ではなく「執行の時」だと考えています。

RHQ-Asiaを拠点にアジアビジネスを拡大

グローバル経営を推進される上で最も重視されている国や地域はどこでしょうか。

当面はアジアを最重要地域に位置づけています。アジアの新興国は経済成長が著しく、インスタントラーメン市場も拡大しております。

アジア市場で事業を拡大していくため、本年4月1日付でシンガポールにRHQ-Asia (Regional Headquarters of Asia) を設立しました。RHQ-Asiaはインドネシア、ベトナム、インド、タイ、フィリ

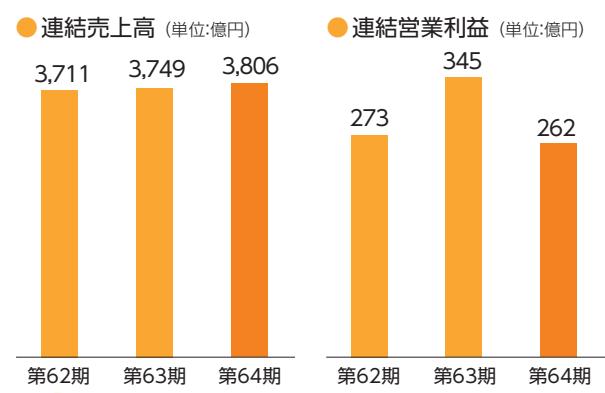
ピン、シンガポールの6か国のほかに、中国を除いたアジアの新興諸国ビジネスを統括します。日清食品グループでは、7つの国内事業会社と4人の海外総代表をプロフィットセンターとし、それをホールディングスの9つのスタッフ部門(プラットフォーム)がサポートする「グローバル・ストラテジック・プラットフォーム」を構築しています。RHQ-Asiaはこのプラットフォームの支援を得ながら、アジア地域における戦略の策定と執行を担っていきます。

RHQ-Asiaが持つ戦略策定・執行機能を日本ではなくシンガポールに置いた理由は何でしょうか。

第1の理由は意思決定のスピードアップを図ること、第2の理由は戦略策定に現地感覚を活かすことです。

日本の加工食品業界は、エネルギーや資材コストの高騰、円高の進行で競争力を失っています。また市場の拡大が鈍化したことで成熟化が進んでいます。このような国では経営判断がどうしても保守的になります。リスクを過剰に気にするあまり意思決定が遅くなりがちです。

一方、アジアの新興国では市場が拡大の一途をたどり、人々は未来に大きな夢を抱いて努力を重ねています。そういった成長国の勢いや人々の活力を当社グループは感じとらなければなりません。現地のニーズや事業環境の変化を「肌感覚」でつかみ取り、スピード感を持って戦略を立案・実行していく。そのために、



● 連結業績の推移 (単位:億円)			
科 目	第62期	第63期	第64期
売上高	3,711	3,749	3,806
営業利益	273	345	262
経常利益	327	364	280
当期純利益	204	207	185

President's Vision

戦略 「日清食品グループの未来に向けた挑戦」



「肌感覚」で現地ニーズを掌握

将来的にプラットフォームのグローバル化も進めていく計画と聞いています。

プラットフォームの多くを現地化することになるでしょう。マーケティング部門はもちろんのこと、生産、資材調達、人事、財務、総務などの諸機能を順次シンガポールに移管していきます。また、研究所を設置して技術開発も一部現地で行う予定です。事業体制を完全にグローバル経営へシフトしていくということです。いまアジア地域では地場企業の台頭が顕著になっていますが、移管したプラットフォームによる万全のバックアップ体制のもとでブランドの浸透を図り、激化する競争に打ち勝っていきたくと思います。

競合に勝つための決め手はやはり技術力でしょうか。

確かに成長へのドライブコアは技術力です。優れたインスタント食品を生み出すためには技術上のイノベーションを積み重ねていかなければなりません。しかし、それだけでは不十分です。技術力を商品に結実させるアプリケーションとしてのマーケティング力、そして営業力も不可欠ですし、世界を舞台に活躍するグローバル感覚を持った人材の育成も重要な経営課題のひとつです。

もうひとつ忘れてはいけないのは、先ほども触れましたが、

「肌感覚」を持つということです。当社グループは経営上の意思決定を行う際、きれいに整えられた稟議書類よりも、現地や現場に根ざして業務に取り組んでいる者が発信する熱のこもった実践感覚を重視しています。

現地の食文化と調和した商品展開も、肌感覚によるマーケティング活動の成果ですね。

その通りです。アジア各国のカップヌードルは、麺や具材こそ日本とほぼ同じですが、スープは現地の人々の嗜好に合ったものに変えてあります。その国の「おふくろの味」を提供しているわけです。ブランディングも同様で、「NISSIN」や「CUP NOODLES」というブランドロゴは使用していますが、パッケージの商品名は現地語で表示しています。肌感覚で現地の食に対するニーズを的確につかみ、スピード感を持って商品戦略に結びつけていかなければなりません。そのためにもRHQ-Asiaの設置を急いだのです。

製品供給体制の盤石化へ、3か国で新工場が竣工

次期もグローバル展開を軸に置いた事業運営になりますか。

その通りです。海外展開の一層の進捗を図ることが次期の最重要テーマになります。期間中にベトナム、インド、タイで日本の主力工場と同規模の工場が竣工しますので、そこを製品供給と新規需要開拓の拠点としてグローバル経営の一層の進展をめざしていきます。

インスタントラーメンは54年前に生まれました。日清食品が市場を新たに創出し、他の優秀なメーカーの努力もあって現在の982億食のマーケットが築かれました。そのうち創業メーカーである日清食品グループが関与しているのは135億食です。シェア拡大の余地はまだあります。

国内事業の今後の運営方針を教えてください。

日本国内においては市場の深耕をさらに推し進めていく計画です。

ここ数年、日清食品や明星食品の基幹ブランドについて積極的な技術開発投資や設備投資を行いました。その効果が収益となって表れるステージに入りました。また、スパゲティなどのチルド・冷凍事業、日清シスコの菓子関係、日清ヨークの「十勝のむヨーグルト」などは今後も安定成長が見込まれます。こうした成長分野に積極的に経営資源を投入し、各事業の深掘りに取り組んでまいります。

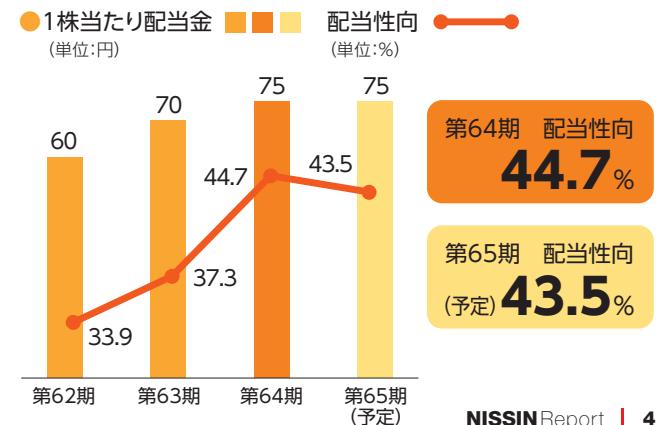
株主様のご支援に報いるために

最後に、株主の皆様への利益還元方針をお聞かせください。

当社では、配当性向40%の維持を目標とするとともに、必要に応じて自己株式の取得を行い、株主価値の向上を図ることを利益還元の基本方針としています。今後もこの方針は変わりません。第64期の年間配当金は1株当たり75円で配当性向は44.7%、2011年8月から9月にかけて50万株の自己株式を市場買付しましたので、総還元性向は50%を超えました。

当社グループは今後もグローバル戦略の着実な遂行を通じて持続的な成長を実現し、株主価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様には、これまでと同様のご理解、ご支援を賜りたく心よりお願い申し上げます。



● グローバル・ストラテジック・プラットフォーム



RHQ-Asia始動!!



シンガポールを拠点に加速するアジア戦略

「現地が必要とされる戦略をスピーディに実現。」この現場に寄り添うサポートのために日本で行っていた海外現地法人の戦略立案・執行のサポートをRHQ (Regional Headquarters)により現地化。アジア地域のサポートを行っていた担当者が現地、シンガポールから徹底的に戦略執行をバックアップします。現地スタッフの考えと現地の肌感覚を全身で受け止めながらアジア市場の成長速度を上回るスピードで事業展開を加速させていきます。



300億食

アジア地域の成長の勢い

成長する300億食の市場

急速な経済成長とともに需要が急拡大しているアジア地域の即席めん市場。インドネシア、ベトナム、インド、タイ、フィリピン、シンガポール等の2011年における即席めんの総需要は日本の約5.4倍以上と、300億食を超えました。先進国の即席めん市場が成熟化し、急激な成長が難しいなか、発展著しく、消費者の嗜好の変化、食の選択肢が多様化するアジア地域の重要性は今後ますます高まっています。

Singapore

RHQ-Asia 地域密着でサポート

Asia

Japan

日本からシンガポールへ

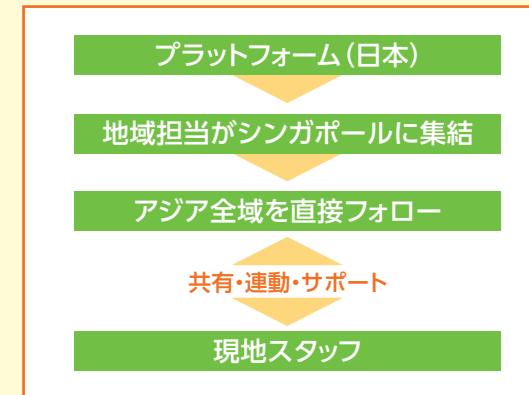
アジア地域担当が
現地で戦略立案・執行
のサポート

RHQ-Asiaによる変化

Before



After



戦略サポート現地化のメリット

- 最新情報の共有
- 肌感覚の戦略立案
- スピーディな戦略執行

経済の急成長を背景に拡大するアジア地域の即席めん市場において、戦略をバックアップするプラットフォームが日本にあったことで、現地での市場感覚を基にした戦略立案・執行にタイムラグが生じていました。

RHQ-Asiaでは、戦略立案・執行のサポートをする担当者がシンガポールに常駐し、現地の食文化や味の嗜好など「肌感覚」を持ち、現地スタッフと、経営戦略、マーケティング、商品開発など最新経営情報を共有し、スピーディな戦略立案・執行を実現いたします。



製品のご案内

TOPICS

日清食品グループがご提案する、この夏の食べ方!!

日清食品



カップヌードル チリトマトヌードル ライト

発売地区: 全国

今年で発売30周年を迎えるロングセラー商品「チリトマトヌードル」が、「カップヌードルライト」シリーズから発売。スパイス感とトマト感のあるスープ、そしてトマトやコーンなど彩り鮮やかな具材。当社独自の技術で、「おいしさ×198kcal×食物せんい」を実現したこの商品は、さまざまな食シーンでお楽しみいただけます。

夏は「E」で! カップヌードルライト

- 1 お湯は、めんがギリギリつかるまで!
- 2 30秒後、一度かき混ぜてください。2分30秒待つ。
- 3 氷を入れてよくかき混ぜて完成!

詳細は ▶ <http://ice.cupnoodle.jp>

夏の新しい食べ方ご提案!!

『カップラーメンは温かいもの』という“常識”を覆い、いつものカップヌードルライトに『氷を入れて冷やして食べる』というまったく新しい食べ方を、カップヌードルブランドから今年の夏に向けて提案します。

<http://www.nissinfoods.co.jp>

日清食品チルド



冷たいラーメンはじめました。 魚介豚骨醤油/辛味噌

発売地区: 全国(北海道・沖縄を除く)

この夏新登場、「冷たいのに濃厚なスープ」が特徴の新感覚ラーメンです。シコシコとした食感の麺に、旨みたっぷりのスープを合わせました。暑い夏に氷を浮かべて、キンキンに冷やしてお召し上がりください。

<http://www.nissinfoods-chilled.co.jp>

味の民芸フードサービス



れもん 檸檬と小海老の冷しうどん

販売価格: 790円(税込829円)

檸檬のさわやかな酸味ともみじおろしのほのかな辛みが食欲をそそります。つゆをかけて、ひんやりとした食感をお楽しみいただけます。

<http://www.ajino-mingei.co.jp>

明星食品



明星 究麺外伝 佐野実 限定香味塩らぁ麺

発売地区: 全国

麺の旨さを追求する究麺を、ラーメンの鬼として有名な佐野実氏が特別に監修し、こだわりのおいしさを追求しました。佐野実氏厳選の素材「クロレアエキス」を配合した、なめらかで小麦の風味豊かなノンフライ麺。豚脂と香味野菜の香ばしい風味が広がる「佐野実氏特製香味油」を使用し、鶏の旨みを凝縮した黄金色の塩味スープ。塩らぁ麺のおいしさを引き立てる素材を組み合わせた具材。佐野氏のこだわりが凝縮された、香味塩スープの限定塩らぁ麺です。

<http://www.myojofoods.co.jp>

日清食品冷凍



スパ王プレミアム なすとモッツアレラのミートソース

発売地区: 全国

大好評ブランド「スパ王プレミアム」が人気シェフ川越達也氏のアドバイスにより、さらにおいしくなりました。しっかりとしたアルデンテ食感の麺と、牛挽肉をじっくり煮込んで完熟トマトで仕立てたソースが奏でる「川越達也おすすめ!」の味わい豊かなスパゲティです。

<http://www.nissinfoods-frozen.co.jp>

日清シスコ



GooTa フルーツたっぷり グラノーラ

発売地区: 全国

「具」が多いをコンセプトに、「シスコーン」シリーズと並ぶ人気シリーズ「GooTa グラノーラ」。5種類のフルーツ(いちご、りんご、パイナップル、レーズン、マンゴー)が、クランチタイプの穀物生地にふんだんにミックスされた、彩りも鮮やかなグラノーラ。穀物のサクサクとした食感と、フルーツの食べ応えのある食感の両方が味わえる、甘みと酸味のバランスが絶妙な一品です。

<http://www.nissincisco.co.jp>

日清ヨーグ



十勝のむヨーグルト 関西工場生産開始

竣工して2年目の関西工場では、「ピルクル」に続き、関東・関西の2工場生産による効率化と全国供給体制を整えました。今後も、主力商品である特定保健用食品「ピルクル」と「十勝のむヨーグルト」の全国への販売拡充を図っていきます。

<http://www.nissinyork.co.jp>

<業績報告>

当連結会計年度における連結売上高は、期初計画3,950億円には未達となったものの、対前期比では、1.5%増の3,806億74百万円となり57億42百万円の増収となりました。

売上高の内訳については、国内では、即席めん事業をはじめ、低温事業、菓子、飲料事業などが順調に推移したことにより、対前期比では、2.2%増の3,301億47百万円となり、72億35百万円増収となりました。

一方、海外の売上高は、各地域セグメントにおいて、現地通貨ベースでは増収となりましたが、円高米ドル安による為替変動が大きく影響し、対前期比では、2.9%減の505億27百万円となり、14億92百万円の減収となりました。

営業利益は、期初計画260億円を達成しましたが、対前期比は24.1%減の262億11百万円となりました。この主な要因は、小麦やパーム油等の原材料価格高騰に伴う売上原価率上昇による影響や積極的な設備投資による減価償却費が増加したこと、退職給付費用の増加によるものです。

経常利益は、配当金などの営業外収支18億87百万円を計上し、280億99百万円と期初計画280億円を上回りましたが、対前期比は22.8%減となりました。

当期純利益は、厚生年金基金代行返上益を特別利益に計上しましたが、期初計画210億円を下回り、対前期比も10.7%減の185億38百万円となりました。

売上高	3,806億円	前期比	101.5%
営業利益	262億円	前期比	75.9%
経常利益	280億円	前期比	77.2%
当期純利益	185億円	前期比	89.3%

<次期業績予想>

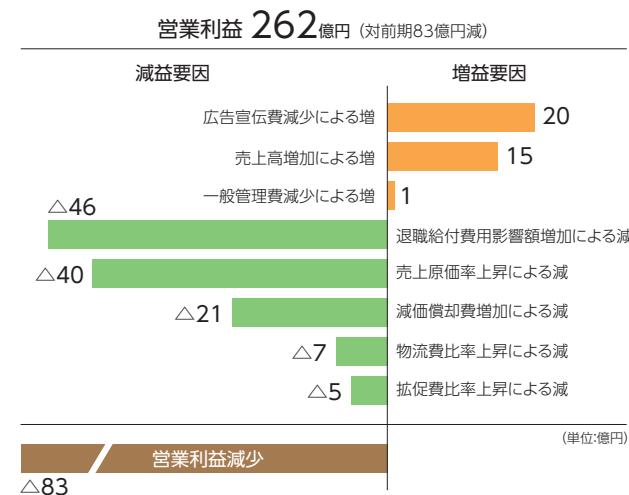
次期の連結業績予想につきましては、連結売上高4,000億円、営業利益270億円、経常利益300億円、当期純利益190億円を見込んでおります。

国内においては、即席めん事業においてレンジ商品の強化など新市場の開拓をはじめ、チルド食品、冷凍食品、菓子、飲料等において、更なる事業の深耕により3,433億円の売上高を見込んでおります。海外では、米州地域においては高付加価値商品の育成や新カテゴリーの創出、中国地域においては主力ブランドの更なる伸長等により増収を見込んでおります。また、アジア地域でも生産体制の確立を優先しつつ、急成長する市場に対応し増収を見込んでおります。これにより海外では568億円の売上高を見込んでおります。

利益面においては、売上高の増加や売上原価の低減に努め、当期純利益190億円を見込んでおります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

営業利益の減益要因 (連結)

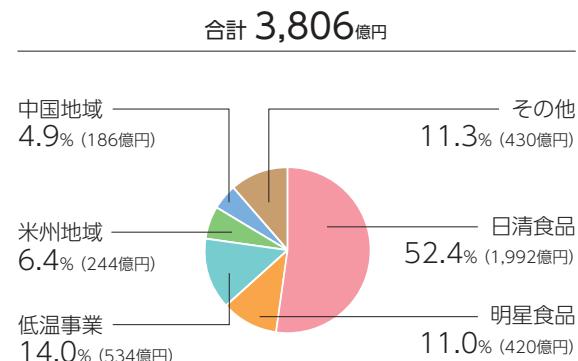


主な経営指標 (連結)

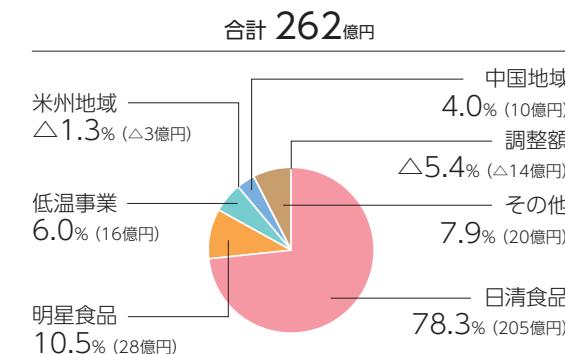
(単位:百万円)

科目	第62期	第63期	第64期	第65期(予想)
売上高	371,178	374,932	380,674	400,000
営業利益	27,341	34,537	26,211	27,000
経常利益	32,794	36,418	28,099	30,000
当期純利益	20,496	20,756	18,538	19,000
総資産	408,410	409,748	414,717	—
純資産	271,951	277,595	286,657	—
自己資本当期純利益率(ROE) (%)	7.5	7.7	6.7	6.6
1株当たり当期純利益(円)	177.02	187.56	167.97	172.46
1株当たり純資産(円)	2,406.26	2,454.67	2,545.31	—
自己資本比率 (%)	65.2	66.3	67.6	—

セグメント別売上高



セグメント別営業利益



SR・IR活動

SHAREHOLDER RELATIONS / INVESTOR RELATIONS

「第9・10回 株主懇親会」を開催



2011年9月2日に、第9回「株主懇親会」をホテルニューオータニ大阪にて開催し、また同年11月25日に、第10回「株主懇親会」をパシフィック横浜等にて開催いたしました。大阪では2,600名、横浜では3,551名の株主様にご出席いただきました。

当社から代表取締役社長・CEO 安藤宏基をはじめ、当社及びグループ会社の役員が出席し、株主の皆様から数多くのご質問と、貴重なご意見を頂戴いたしました。なお、横浜開催時には、株主様を同年9月に横浜みなとみらいにオープンした「カップヌードルミュージアム」へご招待いたしました。

「個人投資家向け 会社説明会」を開催



2011年4月から2012年3月まで、野村証券、大和証券、SMBC日興証券の本支店などにおいて、15回の「個人投資家向け会社説明会」を開催し、当社代表取締役副社長・COO 中川晋をはじめとする当社取締役・執行役員が当社グループの企業概要、業績、主要な取り組みなどについて説明を行い、合計1,400名以上の個人投資家の皆様にご参加いただきました。

株主優待



2011年度製品詰め合わせセット例
(1,000株以上3,000株未満)

対象株主	100株以上 500株未満	500株以上 1,000株未満	1,000株以上 3,000株未満	3,000株以上
A (製品)	1,500円相当の グループ会社製品	2,500円相当の グループ会社製品 + 味の民芸フード サービス[2,000円] 分のお食事券	3,500円相当の グループ会社製品 + 味の民芸フード サービス[3,000円] 分のお食事券	4,500円相当の グループ会社製品 + 味の民芸フード サービス[4,000円] 分のお食事券
B (寄付)	「国連WFP協会」へ 1,500円の寄付	「国連WFP協会」へ 2,500円の寄付	「国連WFP協会」へ 3,500円の寄付	「国連WFP協会」へ 4,500円の寄付
基準日 (贈呈日)	3月末日現在の株主様に対し、原則として7月に贈呈いたします。 9月末日現在の株主様に対し、原則として翌年1月に贈呈いたします。			

※株主優待(A)、株主優待(B)のいずれかを選択

当社株主優待における寄付のご報告

2012年3月31日を基準日とする当社「株主優待制度」において寄付を選択していただいた株主様は、下記の通りとなりました。ご協力を賜りました株主様には心より御礼申し上げます。

- (1) 株主数 974名(累計 4,947名)
- (2) 寄付金総額 202万7,000円(累計 1,021万1,500円)
- (3) 寄付先 認定NPO法人「国連WFP協会」

※本選択は、2011年3月31日を基準日とする株主優待よりご案内いたしております。

CSR活動

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY

ひやくふくし 百福士プロジェクト 第8弾



東北の未来を發明しようプロジェクト ～子どもたちに、ひらめくチカラを～

日清食品創業者安藤百福(あんどうももふく)は、終戦後、多くの人々が食糧不足に苦しむ光景を見て「食が足りてこそ、世の中が平和になる」という思いを抱きました。そして、事業の失敗などの苦難を乗り越え、1958年に世界初のインスタントラーメン「チキンラーメン」を發明しました。その後、さまざまな知恵と革新的な発想を結集して、1971年に世界で初めてのカップめん「カップヌードル」を發明しました。

横浜みなとみらいの体験型ミュージアム「カップヌードルミュージアム」では、世界の食文化を革新した安藤百福の「クリエイティブシンキング＝創造的思考」を数々の展示や体験施設を通じて体感することができます。

本プロジェクトは、東日本大震災で被災された東北の子どもたちが「カップヌードルミュージアム」を訪れ、楽しみながら、安藤百福の「あきらめない心」や「發明・発見の大切さ」などを学び、復興の中で力強く生きるエネルギーを養うことを目的としています。

2012年5月から2013年3月の間、岩手県、宮城県、福島県内の10地区より、小学4～6年生とその保護者を2名1組として、合計で1,000名様をご招待します。

参加者のコメント

- 明日から、またがんばろうと思いました。
- 汗をかいて遊ぶ息子の姿が、嬉しくてたまりませんでした。
- 都会の景色も見られたし、ラーメン作りもすごく楽しかった。百福さん、ありがとうございました。
- 百福さんの志は、未来の子どもたちの大きな力となると思われます。

百福士とは？

日清食品グループでは、創業50周年を迎えた2008年から「百福士プロジェクト」を実施しています。

日清食品創業者安藤百福にちなんで、未来のためにできることを実行していく活動です。テーマは「創造」「食」「地球」「健康」「子供たち」の5つ。創業100周年を迎える2058年までの50年間に、合計で100の社会貢献活動を行い、より豊かな地球社会全体の未来づくりに貢献していきます。



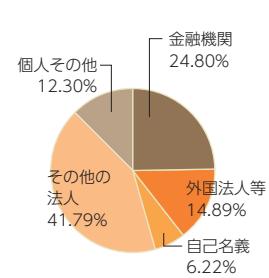
会社概要

商号	日清食品ホールディングス株式会社 (NISSIN FOODS HOLDINGS CO.,LTD.)
設立	1948年9月
資本金	25,122,718,774円
従業員数	423名(連結7,533名)
東京本社の所在地	東京都新宿区新宿六丁目28番1号
大阪本社の所在地	大阪市淀川区西中島四丁目1番1号
事業内容	グループ事業会社(国内・海外)への経営サポート等

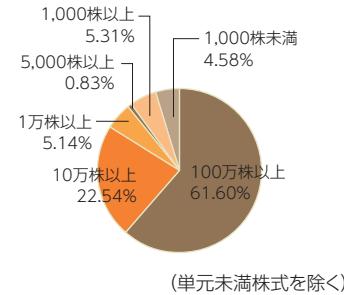
株式の状況

発行可能株式総数	500,000,000株
発行済株式総数	117,463,685株
株主数	46,386名
1単元の株式数	100株
単元株主数	44,187名

所有者別状況



所有数別状況



大株主の状況

株主名	持株数(百株)	持株比率(%)
財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団	79,043	7.17
三菱商事株式会社	78,000	7.08
伊藤忠商事株式会社	78,000	7.08
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー株式会社	72,011	6.54
株式会社安藤インターナショナル	40,000	3.63
株式会社みずほコーポレート銀行	33,750	3.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	27,748	2.52
株式会社三菱東京UFJ銀行	26,285	2.39
小野薬品工業株式会社	24,604	2.23
江崎グリコ株式会社	23,610	2.14

(注1)当社は、自己株式72,911百株を保有しておりますが、上記の大株主の状況から除いております。
(注2)持株比率の算定にあたっては、自己株式数を除いて算出しております。

役員及び執行役員 (2012年6月28日現在)

代表取締役 取締役社長・CEO	安藤 宏基
代表取締役 取締役副社長・COO 兼 日清食品(株)代表取締役社長	中川 晋
専務取締役・CSO 兼 RHQ-Asia統括 兼 米州総代表	安藤 徳隆
常務取締役・CPO	松尾 昭英
常務取締役・欧州総代表 兼 ロシア事業担当	成戸 隆之
取締役・CDO 兼 食品総合研究所長	田中 充
取締役・CFO	横山 之雄
取締役・CBO 兼 日清食品(株)代表取締役 専務取締役	三浦 善功
取締役(社外取締役)	小林 健
取締役(社外取締役)	岡藤 正広
取締役(社外取締役・独立役員)	石倉 洋子

常勤監査役	鉄林 修
常勤監査役(社外監査役)	金森 一雄
監査役(社外監査役)	堀之内 徹
監査役(社外監査役・独立役員)	高野 裕士

上席執行役員・CQO 兼 食品安全研究所長	山田 敏広
--------------------------	-------

執行役員・中国総代表 兼 香港日清社長	安藤 清隆
執行役員・総務部長	右近 龍也
執行役員・CRO 兼 資材統括部長	楠本 一人
執行役員・技術統括部長	坂井 孝司

執行役員・アジア総代表 兼 シンガポール事業責任者	佐々木 智
------------------------------	-------

執行役員・宣伝統括部長	鈴木 均
執行役員・CAO 兼 広報部長	服部 秀樹
執行役員・生産本部 副本部長	山田 恭裕

(注)石倉洋子氏につきましては、そのお名前が高名であるため、上記のとおり表記しておりますが、戸籍上のお名前は、栗田洋子氏であります。

CEO Chief Executive Officer の略記(最高経営責任者)
COO Chief Operating Officer の略記(最高執行責任者)
CSO Chief Strategy Officer の略記(グループ経営戦略責任者)
CPO Chief Production Officer の略記(グループ生産責任者)
CDO Chief Development Officer の略記(グループ食品総合研究責任者)
CFO Chief Financial Officer の略記(グループ財務責任者)
CBO Chief Business Officer の略記(グループ営業責任者)
CQO Chief Quality Officer の略記(グループ安全研究責任者)
CRO Chief Resourcing Officer の略記(グループ資材調達責任者)
CAO Chief Administrative Officer の略記(グループ管理責任者)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間
配当金受領株主確定日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
単元株式数	100株
定時株主総会	6月中に開催
基準日	3月31日
公告の方法	その他必要あるときは、あらかじめ公告して定めます。 電子公告の方法により行います。ただし、電子公告による ことができない事故その他のやむを得ない事由が生じた ときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。 (公告掲載URL) http://www.nissinfoods-holdings.co.jp/koukoku/

株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪市北区曽根崎二丁目11番16号 みずほ信託銀行株式会社 大阪支店 証券代行部
郵便物送付先及びお問合せ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-288-324(フリーダイヤル)
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第一部 大阪証券取引所市場第一部

ご案内

(1) 株式に関するお手続きについてのお問合せ先について

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
郵送物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受取り方法の変更等)	お取引の証券会社等になります。	みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店 プラネットブース(株式会社みずほ銀行内の店舗) みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
未払配当金のお支払		みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 株式会社みずほ銀行 本店及び全国各支店 (みずほインベスターズ証券株式会社ではお取次のみとなります)
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続きを行っていただく必要があります。 みずほインベスターズ証券株式会社に単元未満株式の買増請求手続きをされる場合は、事前にみずほ信託銀行株式会社が指定する口座に送金していただく必要があります。

(2) 電子メールアドレスのご案内

当社は株主様からのご意見を、お電話、お手紙のほかに電子メールを利用してお寄せいただくための電子メールアドレスを設けております。
当社についてお気付きの事柄がございましたら、次のメールアドレスまでご意見を
お寄せください。

なお、お電話、お手紙でもお待ちしております。

①電子メールアドレス
E-mail soumu@nissinfoods-holdings.co.jp

②ご連絡先

〒160-8524 東京都新宿区新宿六丁目28番1号
日清食品ホールディングス株式会社
総務部 株主様係
TEL 0120-938-366(フリーダイヤル)
FAX (03) 3205-5059
E-mail soumu@nissinfoods-holdings.co.jp



この冊子の印刷・製本に係るCO₂はPROJECT-With the Earthを通じてオフセット(相殺)しています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080



株主様向けアンケート結果ご報告

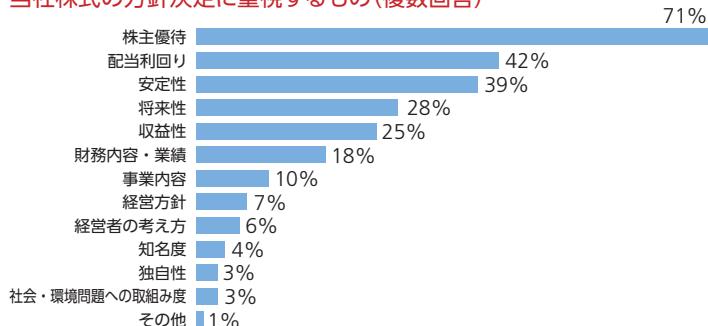
SHAREHOLDERS QUESTIONNAIRE

アンケートのご回答ありがとうございました

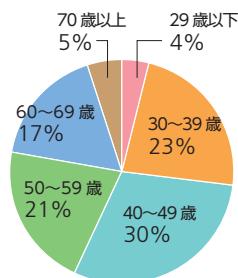
2011年9月30日現在の株主様を対象に、当社に対するご意見、株式投資上の関心事項、ご要望等を把握し、今後の株主通信に反映させていくために、「株主アンケート」を実施し、970件のご回答を頂戴致しました。ご協力をいただきました株主様に心より御礼を申し上げますとともに、以下に、集計結果の要旨をご報告させていただきます。今回の結果を活かし、株主様にとってよりわかりやすい株主通信をお届けできるよう、今後とも取り組んでまいります。

※男女構成比 男性729件(75%)：女性241件(25%)

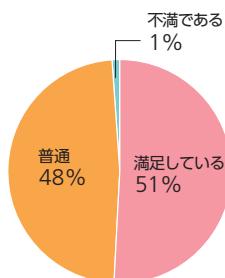
当社株式の方針決定に重視するもの(複数回答)



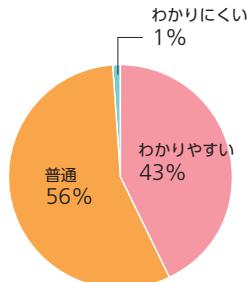
年齢構成比



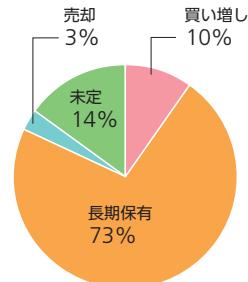
当社IR活動の満足度



株主通信のわかりやすさ



当社株式に対する今後の方針



株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。

(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL:03-5777-3900(平日 10:00～17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 2897

いいかぶ

 空メールにより URL自動返信 kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

 日清食品ホールディングス株式会社

東京本社 〒160-8524 東京都新宿区新宿六丁目28番1号
大阪本社 〒532-8524 大阪市淀川区西中島四丁目1番1号
ウェブサイト <http://www.nissinfoods-holdings.co.jp/>